

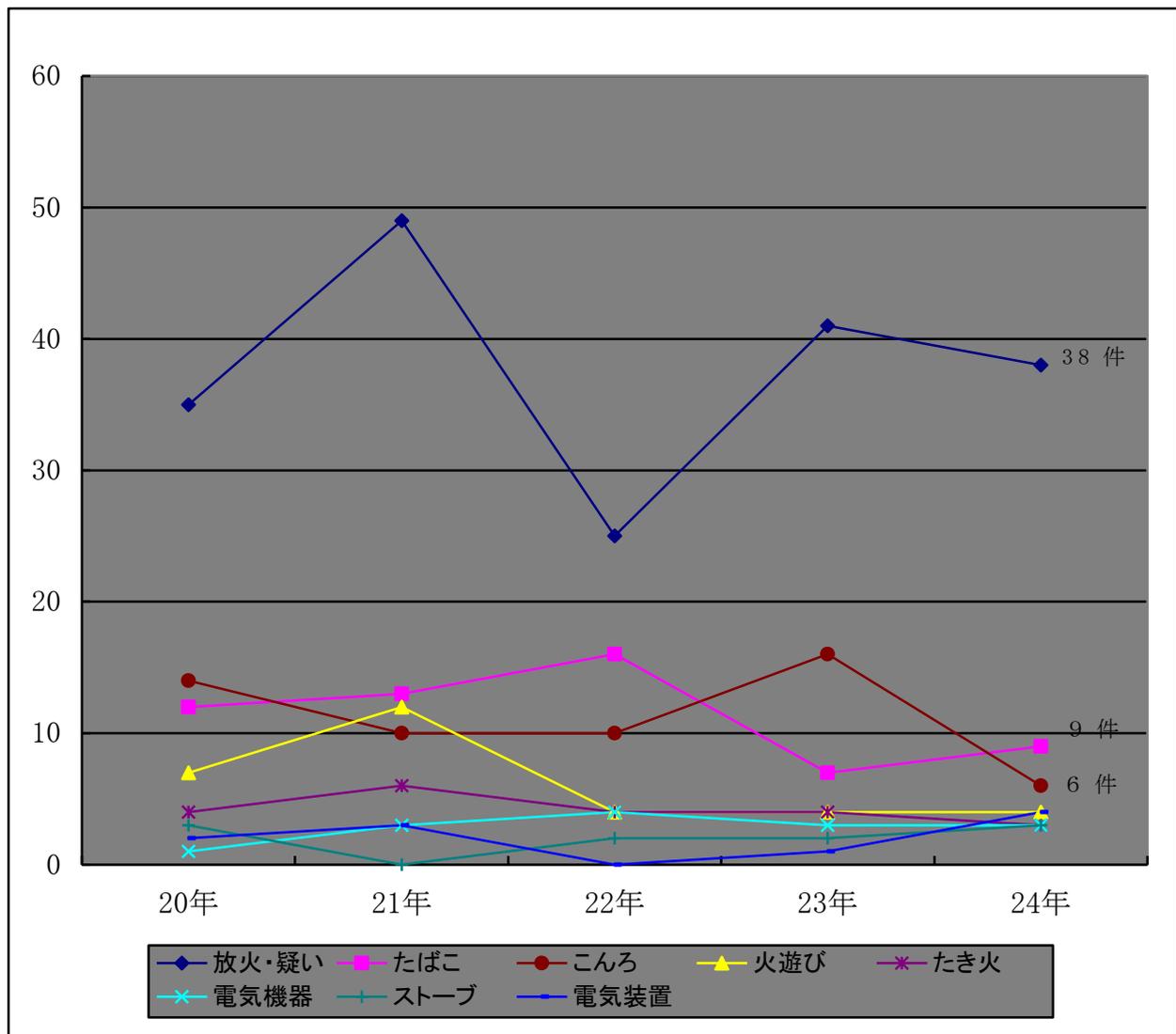
4 主な出火原因別の状況

平成 24 年中の出火原因で最も多いのが「放火（「疑い」を含む、以下同じ。）」で、38 件発生している。次いで「たばこ」9 件、「こんろ」6 件、「火遊び」、「電気装置」が 4 件の順となっている。

過去の主な出火原因別件数をみると、「放火」、「たばこ」、「こんろ」が常に出火原因の上位となっている。

出火原因別件数状況は、図 4-0-1 に示すとおりである。

図 4-0-1 出火原因別件数状況（最近 5 年間）



平成 24 年中の出火原因上位である「放火」、「たばこ」、「こんろ」の 3 つについて、以下取り上げる。

(1) 放火～22年連続、出火原因の1位～

ア 火災状況

平成24年中の「放火」による出火件数は、前年に比べ3件減少して38件であり、全火災(103件)の36.9%となっている。放火による火災は、平成3年から22年連続して出火原因の1位となっている。

また、平成24年中は、玉野町地内、藤山台地内、岩成台地内で、放火による火災が多発した。

放火火災の状況は、表4-1-1に示すとおりである。

表4-1-1 放火火災一覧(最近5年間)

平成	出火件数(件)										焼損床面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	建物	焼損棟数(棟)					林野	車両	その他				
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計							
20	35	14	2	0	8	6	16	3	2	16	604	26,405	1(1)	1(1)
21	49	21	2	1	4	15	22	1	5	22	509	62,462	4(4)	1(0)
22	25	10	1	1	7	5	14	1	4	10	80	14,915	1(1)	0(0)
23	41	16	0	1	5	12	18	0	5	20	349	7,978	0(0)	4(2)
24	38	14	4	1	4	11	20	0	3	21	171	5,688	1(1)	0(0)

(参考) 1 焼損棟数に類焼棟も含む。

2 死者及び負傷者の()は、自殺者・自損者を表す。

「放火」による火災の種別は、その他の火災が21件で55.3%となっており、次いで建物火災が14件(36.8%)、車両火災3件(7.9%)となっている。

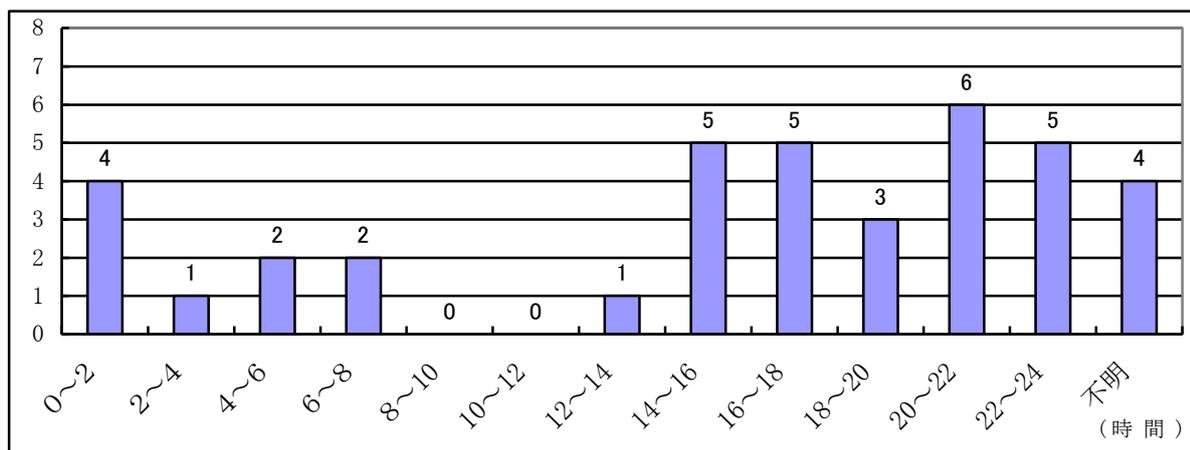
「放火」による火災の損害額は5,688千円で、火災による損害額全体(470,132千円)の1.2%となっている。

イ 時間帯別発生状況

「放火」による火災 38 件について、発生状況を時間帯別にみると、周りが暗くなる 20 時から翌 6 時の時間帯に 18 件発生し、47.4% を占めている。

時間帯別発生状況は、図 4-1-1 に示すとおりである。

図 4-1-1 時間帯別発生状況（単位：件）



ウ 出火箇所と着火物

「放火」による火災 38 件を、建物火災と建物火災以外の火災に大別してみると、建物火災は 14 件、建物火災以外の火災は 24 件発生している。

建物火災 14 件の出火箇所をみると、建物内部で 4 件、建物外部で 10 件発生し、建物外部 10 件のうち、駐車場、駐輪場が最も多く 4 件となっている。

建物火災以外の火災 24 件の内訳は、車両火災が 3 件、その他の火災が 21 件となっており、出火箇所をみると、「公園」が最も多く 7 件となっている。

着火物をみると、建物火災では「袋及び紙製品」が最も多く 6 件で、建物火災以外の火災では「ごみ類・枯草」が最も多く 12 件となっている。

エ 用途別

「放火」による建物火災 14 件を火元建物用途別にみると、9 件（64.2%）が居住系の建物で発生している。その他の内訳は、公園内の建物、物品販売店舗の駐車場等で、不特定多数の人が利用する施設が多い。

建物用途別発生状況は、表 4-1-2 に示すとおりである。

表 4-1-2 建物用途別発生状況（単位：件）

火 元 の 用 途												
合 計	居 住 系					事 業 系						
	小 計	一 般 住 宅	共 同 住 宅	併 用 住 宅	住 宅 付 属 建 物	小 計	複 合 用 途	物 品 販 売 店 舗	倉 庫	作 業 場	旅 館 ・ ホ テ ル	そ の 他
14	9	2	6	0	1	5	0	1	0	0	0	4

(2) こんろ～主に天ぷら油から出火～

ア 火災状況

平成 24 年中の「こんろ」による出火件数は 6 件であり、全火災（103 件）の 5.8%となっている。

「こんろ」による火災のうち、「天ぷら油」が起因する火災が最も多く 5 件で 83.3%を占めている。

こんろ火災の状況は図 4-2-1 に、天ぷら油による火災の状況は表 4-2-1 に示すとおりである。

図 4-2-1 こんろ火災の状況（最近 5 年間、単位：件）

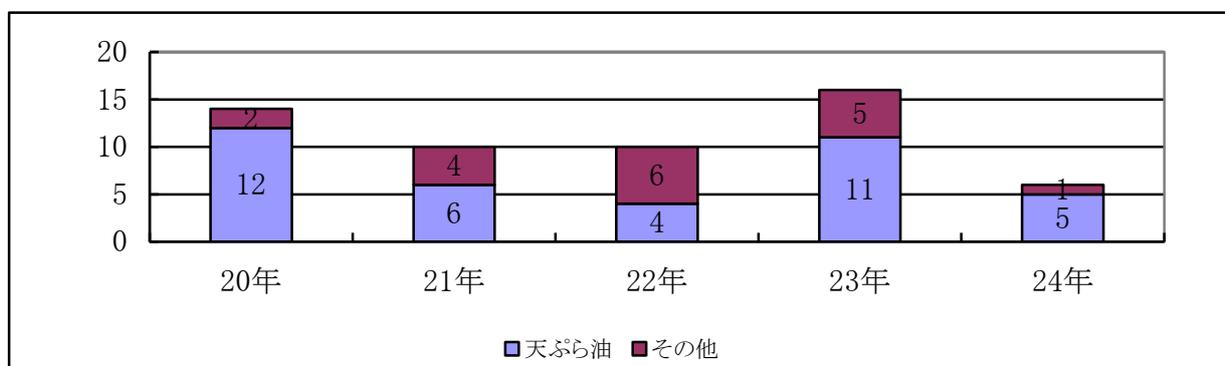


表 4-2-1 天ぷら油による火災の状況（最近 5 年間）

平成	建物火災（件）					焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	焼損棟数 (棟)	り災世帯 (世帯)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
20	12	0	0	7	5	52	130	23,681	12	10	0	0
21	6	0	0	3	3	11	34	1,265	6	6	0	1
22	4	0	0	3	1	8	2	186	4	4	0	1
23	11	0	0	5	6	3	7	397	11	10	0	1
24	6	0	0	1	5	6	0	303	6	4	0	3

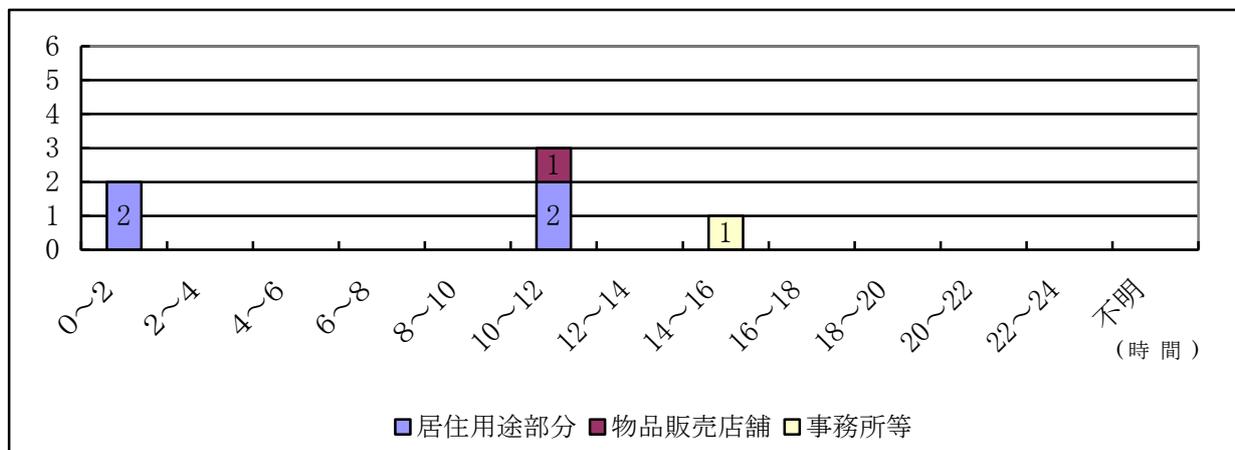
天ぷら油による火災を含めた、「こんろ」による火災の損害額は 303 千円で、火災による損害額全体（470,132 千円）の 0.001% となっている。

イ 時間帯別発生状況

「こんろ」による火災 6 件について、発生状況を時間帯別にみると、食事の時間帯に最も多く発生しているものの、深夜の時間においても発生している。

時間帯別発生状況は、図 4-2-2 に示すとおりである。

図 4-2-2 時間帯別発生状況（単位：件）



ウ 出火箇所と着火物

「こんろ」による火災 6 件を出火箇所で見ると、居住用途部分は 4 件（66.7%）、物品販売店舗等の居住用途部分以外は 2 件（33.3%）である。

着火物は、「天ぷら油（動植物油）」が 5 件で 83.3% を占め、次いで「衣類」1 件（16.7%）となっている。

原因別で見ると、「放置・忘れる」、「過熱」、「可燃物が接触」がそれぞれで 2 件（33.3%）ずつとなっている。

(3) たばこ～死者 1 人発生～

ア 火災状況

平成 24 年中の「たばこ」による出火件数は 9 件であり、全火災（103 件）の 8.7% となっている。

「たばこ」による火災は前年の 7 件から 2 件増加しており、死者が 1 人発生している。

たばこによる火災の状況は、表 4-3-1 に示すとおりである。

表 4-3-1 たばこによる火災一覧（最近 5 年間）

平成	出 火 件 数 (件)									焼 損 床 面 積 (㎡)	林 野 焼 損 面 積 (a)	損 害 額 (千円)	死 者 (人)	負 傷 者 (人)	
	合 計	建 物	焼 損 棟 数 (棟)					林 野	車 両						そ の 他
			全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	合 計								
20	12	6	1	0	3	2	6	0	3	3	143	0	23,802	1	1
21	13	6	0	1	3	2	6	0	1	6	63	0	11,274	0	8
22	16	7	0	0	4	3	7	0	1	8	74	0	27,772	0	0
23	7	6	1	1	6	2	10	0	0	1	256	0	15,914	2	0
24	9	6	1	0	3	2	6	0	1	2	64	0	9,214	1	1

(参考) 焼損棟数に類焼棟も含む。

「たばこ」による火災の種別は、建物火災が 6 件で 66.7% を占め、次いでその他の火災が 2 件（22.2%）、車両火災で 1 件（11.1%）となっている。

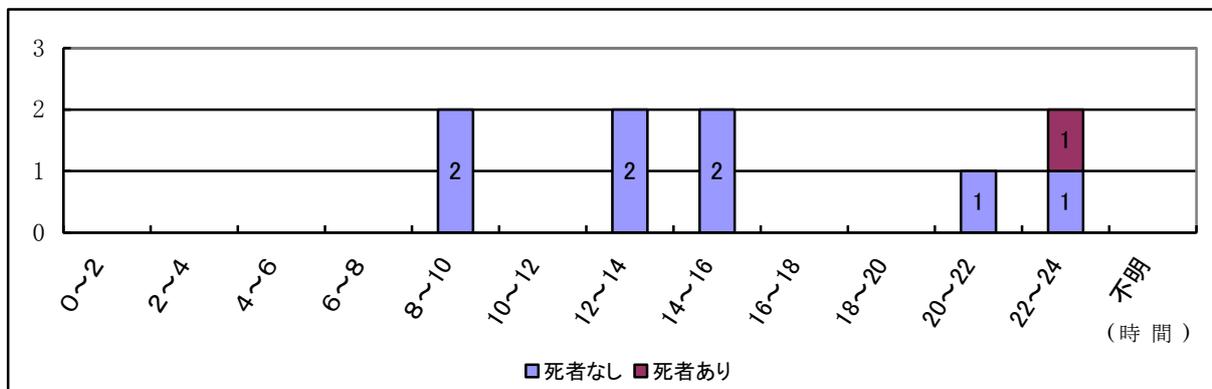
「たばこ」による火災の損害額は 9,214 千円で、火災による損害額全体（470,132 千円）の 2.0% となっている。

イ 時間帯別発生状況

たばこによる火災 9 件について、発生状況を時間帯別にみると、顕著な差はなく昼夜問わず発生しているが、死者が発生した 1 件についてみると、22 時から 24 時の間に発生している。

時間帯別発生状況は、図 4-3-1 に示すとおりである。

図 4-3-1 時間帯別発生状況（単位：件）



ウ 出火箇所と着火物

「たばこ」による火災 9 件を出火箇所で見ると、主に建物の部分は 6 件、建物以外では 3 件発生している。

主に建物の部分で発生した 6 件をみると、「居室」が最も多く 5 件で 83.3% を占めている。

また、着火物で見ると、「ふとん、座ぶとん、寝具」が 2 件、「ごみくず」、「畳」、「合成樹脂と成形品」、「その他」が各 1 件となっており、吸殻の不始末や、寝たばこが原因とみられる。

建物以外の場所で発生した 3 件では、河川敷や空地で、枯草や落葉に着火したものや、車両の運転席で吸殻の不始末が原因で出火している。